

平成28年6月17日

2年生保護者様

新見市立哲多中学校

校長 梶川 克紀

平成28年度第2学年標準学力調査（平成28年4月19日実施）の結果について

梅雨の候 保護者の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃より本校教育の推進に、ご理解とご協力をいただき、感謝いたします。

さて、本年4月に実施しました「**第2学年標準学力調査**」の結果につきまして、その概略を文書にてご報告いたしますとともに、個人票を配布いたしますので、各家庭での指導のご参考にさせていただきますようご案内いたします。

記

1 到達度について

教科	国語	社会	数学	理科	英語
本校平均	77.0	56.8	68.2	55.1	69.0
全国平均	72.3	56.4	60.5	50.8	64.3

2. 各教科ごとの分析

教科	すぐれている点 改善を要する点	対策
国語	漢字の書き取りや文法問題など、基礎知識の正答率が高い。 70%以上の生徒の書く能力が目標値よりも高い。	・登場人物の心情を読み取るため、気持ちの描写や情景描写に着目させる機会を増やす。 ・説明的文章の段落の役割について学習し、段落の要旨をまとめさせる。
	物語の人物像や心情を読み取る力、情景が表すものを読み取る力が劣っている。 文章の構成を捉え、趣旨を読み取る力が劣っている。	
社会	世界地図や世界の人々の生活と環境に関する知識が身に着いている。 古墳時代までの知識は定着し、理解できている。	・問題集を繰り返し行い、基礎知識の定着を図る。 ・資料を提示した問題に取り組ませ、資料を読み取る力と考える力を育成する。
	飛鳥時代から平安時代の基礎的な知識が定着していない。 資料の読み取りや複数の資料を比較する問題ができていない。	

数 学	文字式や1次方程式など、基礎的な計算問題の正答率が高い。 資料を読み取り、代表値を求める問題ができています。	・分数に関して苦手意識を持っている生徒が多いため、ドリル学習を繰り返し行う。
	分子が1次式である分数の計算ができていない。 単純な時差の計算はできるが、時差を比較して導き出すような、発展的な計算問題ができていない。	・生活に関連づけた計算問題を授業で取り組み、発展的な課題対策を行う。
理 科	植物の特徴や分類に関しては学習が定着している。 気体の発生方法や性質の性質について正答率が高い。	・課題と思われる点は、小学校での学習の振り返りのため、中学校で学習する際に丁寧な授業と、振り返りを繰り返し行う。
	身近な物理現象である光と音の性質について、力と圧力に関して理解できていない。 水の沸騰や温度変化による状況変化が理解できていない。	
英 語	単語を並び替え、英文を正しい語順で書くことができる。 3文以上の英作文を書き表すことができる。	・英文を一文ずつ訳していく授業ではなく、読解力の向上を目指した授業展開にする。
	様々な英文を読み取り、登場人物の発言を判断することができない。	・様々な出題形式の問題に組みませ、答え方を多面的な対応ができるようにする。

3 標準学力調査後の生徒の取り組み

- ・個人票を面談と共に返却し、目標値に対する正答率を確認する。
- ・個人票をもとに生徒自身も標準学力調査を分析し、何を復習すべきなのか学習の見通しを立てる。
- ・eライブラリを活用して学習できる項目を書き出す。